



TITLE:

静脩 Vol. 51 No. 3(2014.10)[全文]

AUTHOR(S):

CITATION:

静脩 Vol. 51 No. 3(2014.10)[全文]. 静脩 2014, 51(3)

ISSUE DATE:

2014-10-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/191072>

RIGHT:

静脩

SEI-SHU

特集

図書館・室のお宝発見、再発見！



CONTENTS

- 02 : 図書館・室のお宝発見、再発見！
- 10 : Library Walk 2014 を開催しました
- 11 : 一冊の本『一陽来復』
- 12 : 図書館・室からのお知らせ

図書館・室のお宝発見、再発見！

京都大学附属図書館では、国宝「今昔物語集（鈴鹿本）」や多数の重要文化財を所蔵しています。部局の図書館・室にもたくさんの「お宝」があることをご存じですか？ 今号では、書庫から発見されたお宝、先生から寄贈されたお宝、そして知る人ぞ知るお宝を一挙ご紹介します。

映画フィルム「関東大震災」（工学研究科吉田建築系図書室所蔵）

中川 美葉（図書室職員）

本資料は関東大震災直後の都心の様子を収めた記録映画です。2013 年 10 月に工学研究科吉田建築系図書室の貴重書庫において発見されました。図書室では当初、フィルムの危険性に着目しました。類推される製作時期やフィルムの外観からみてナイトレートフィルムでは？と疑われたためです。ナイトレート（nitrate）とは、「ニトロセルロース（cellulose nitrate）：映画製作の初期にフィルムベースとして使われた可燃性物質」（*1）のことで、発火性が強く、常温でも自然発火する場合がありますとされています。その後調査を進めるうちに、やはりナイトレートフィルムであることと共に、映像自体が大変鮮明であることが分かりました。

関東大震災の記録映画は多くの複製を生んでおり、実際本資料を含め現在確認されている 10 本余りのフィルム同士、重複映像が多く見られます。その中にある本資料は、鮮明さにおいて群を抜くといえます。それに加え、缶ケースのラベルに「大阪毎日新聞社」の印刷・押印があり、本体冒頭のタイトルコマに「贈 京都帝国大学 大阪毎日新聞社」とあることから、製作者・大阪毎日新聞社から直接贈られたことが推察され、オリジナルに近い早い段階での製作物であることが窺えます。

映像には、炎と煙に巻かれていく家屋、広場に集まりひしめき合う群衆、荷物を運び出し避難する人々とその頭上に舞う火の粉まで活写されています。地震により損壊していた 12 階建ての浅草・凌雲閣が、後日爆破処理されるシーンも含まれています。鮮明であるために、従来判読不能であった看板の文字や人々の着る法被の図柄など新たに読めるようになったものが少なくありません。それにより場所の特定、さらには被害状況の解明が進み、今後の防災研究をはじめ広く活用されることが期待されます。また人々はその表情まで鮮やかに映し出されています。90 年の時を経て立ち現れる市井の人々。その点からもやはり貴重な研究資源といえるでしょう。

工学研究科建築学専攻と京都大学研究資源アーカイブでは、不燃フィルム・デジタル映像ファイルへのメディア変換を行いました。2014 年 7 月には、その映像が京都大学デジタルアーカイブシステムに収録され、一般公開となりました。（無声映画 12 分 35 秒）

（*1）"nitrate" ランダムハウス英和大辞典

JapanKnowledge

<http://japanknowledge.com>（参照 2014-08-25）

資料の利用方法

* オリジナルのフィルムは東京国立近代美術館へ寄贈されました。図書室では複製フィルムを所蔵しています。

- ・所蔵館： 工学研究科吉田建築系図書室
- ・配置場所： 地下書庫別冊
- ・請求記号： なし
- ・閲覧： 映写は不可、外観閲覧は可
- ・複製： 不可
- ・貸出： 不可
- ・事前連絡： 必要（貴重書閲覧申請）
- ・特記事項： 貴重書

- ・備考： 映像は京都大学デジタルアーカイブシステムにて一般公開

【京都大学デジタルアーカイブシステム（KUDAS）】
コレクションからみる > 京都帝国大学工学部建築学
教室 35mm フィルム：実写 関東地方大震災 [1923] >
映像全体・一覧をみる > コンテンツをみる

<http://das.rra.museum.kyoto-u.ac.jp/>



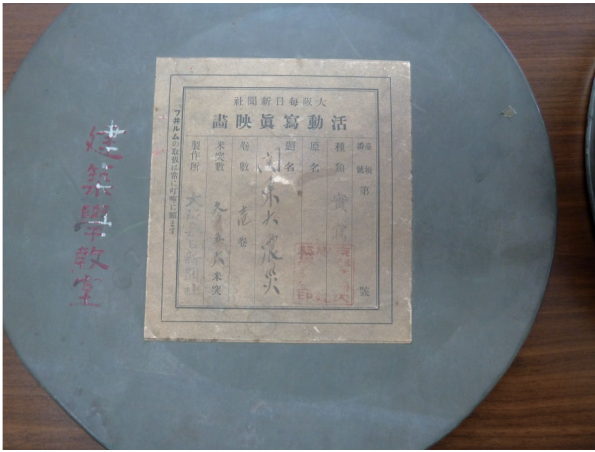


図 1. フィルム缶の外観



図 2. フィルム

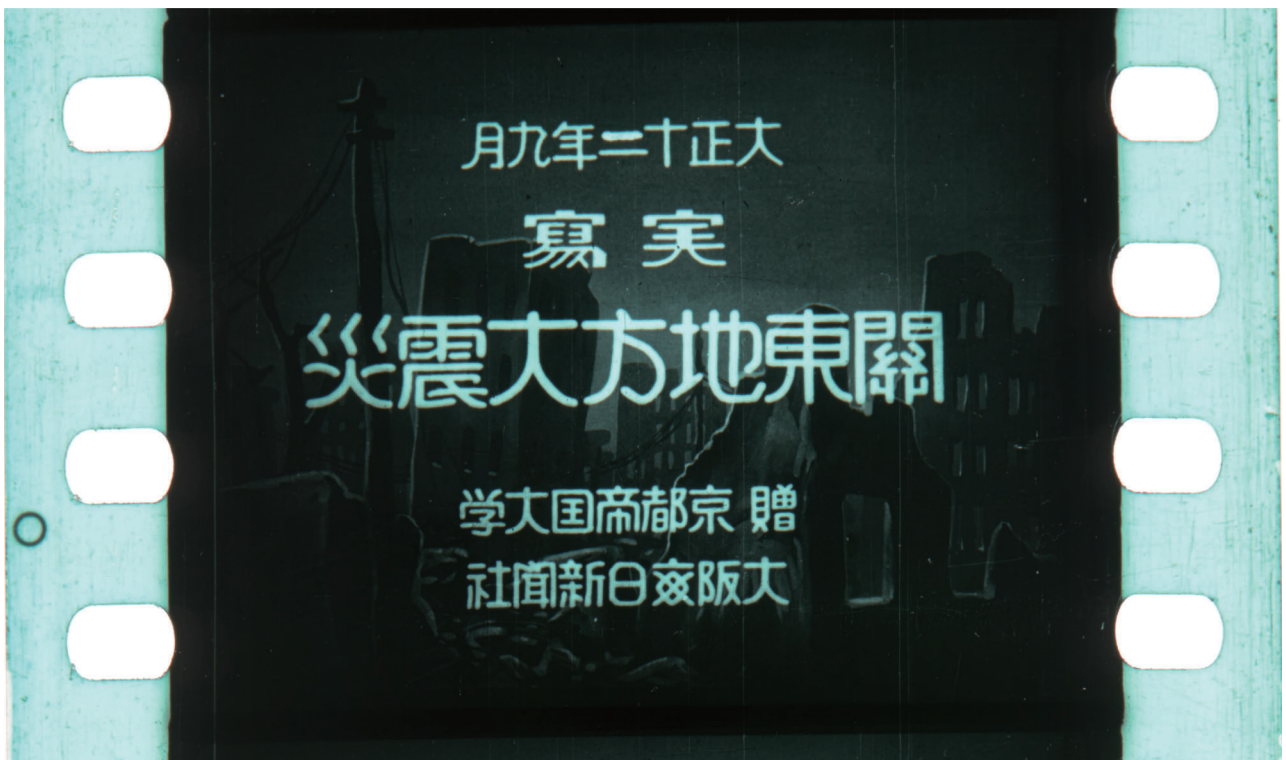


図 3. フィルム冒頭のタイトル



図 4. 避難する人々



図 5. 凌雲閣の爆破

東洋星図（花山天文台所蔵）

富田 良雄（理学研究科物理学・宇宙物理学専攻助教）

夜空の星々の位置を記録した地図を星図といいま
す。星図は世界地図より起源は古く、地上の支配者と
天上の神とがつながるという世界観をベースとして、
古代文明はそれぞれに独自の星座をつくり、星図を描
きました。ここで紹介するのは東アジア世界の三つの
星図「天文図」「天象列次分野之図」「天文成象」です。

天文図

中国南宋の寧宗皇帝が着位前にその帝王学のために
紹熙 4 年（1193）に製作された星図です。1247 年に
石刻され、江蘇省蘇州孔子廟の石碑として現存します。
本品はその拓本です。本文には赤道、黄道、白道など
の説明と、1565 星についての記述があります。

天象列次分野之図

朝鮮王朝太祖 4 年（1395）に作製された石刻星図で
す。肅宗（在位 1675 — 1720）の時代に複製石碑が製
作され、本品はその拓本です。天の川がはっきりと描
かれ彩色されています。

天文成象

初代幕府天文方の渋川春海が息子昔尹（ひさただ）
の名で元禄十二年（1699）に刊行した星図です。伝統
的な中国の 300 星座に、自ら製作した渾天儀を用いた
観測により新たに 61 星座を追加し日本独自の星図を
完成させました。息子の名で出版したのは天文方の後
継ぎとしての業績を明示するつもりでした。

これらの星図にある星座は、学校の理科の時間に習
う西洋星座とは異なります。星の位置は同じですから、
たとえば西洋のオリオン座に対応するのはこれこれだ
な、と同定できます。試してごらんください。ところが
空海が遣唐使として唐の都長安から持ち帰った密教の
知識に基づいて描かれた、星曼荼羅（ほしまんだら）
という絵図が法隆寺などに残されています。これには
9 世紀初頭の国際都市長安に西域から伝わった黄道十
二宮と中国の二十八宿の東西両方の星座が描かれてい
ます。

これらの星図は京都大学花山天文台の初代台長をつ
とめた山本一清博士（1889-1959）が所蔵していたも
のです。山本先生は京大を退官したあと 1941 年に滋
賀県の自宅に私設の天文台を建設し、天文同好会（現
東亜天文学会）の事務局をおき、数多くの熱心な天文
愛好家をそだてました。その天文台建物が老朽化する
に及んで、ぎっしり詰め込まれていた観測器具類、観
測記録、書籍、書類一式が 2011 年に古巣の花山天文
台に寄贈されました。「山本天文台資料」と命名し、整
理作業と調査研究が進んでいます。その中から東洋星
図 3 点が見つかったのです。

資料の利用方法

『天文図』

- ・所 蔵 館： 理学研究科
- ・配置場所： 花山天文台
- ・請求記号： なし
- ・閲 覧： 可
- ・複 写： 不可
- ・貸 出： 不可
- ・事前連絡： 必要
- ・特記事項： 貴重書
- ・備 考： 問い合わせ先：理学部中央図書室

『天象列次分野之図』、『天文成象』

- ・所 蔵 館： 理学研究科
- ・配置場所： 花山天文台
- ・請求記号： なし
- ・閲 覧： 現在資料に痛みがあるため、研究上ど
うしてもこの部分を確認したいという
場合のみ閲覧可
- ・複 写： 不可
- ・貸 出： 不可
- ・事前連絡： 必要
- ・特記事項： 貴重書
- ・備 考： 問い合わせ先：理学部中央図書室

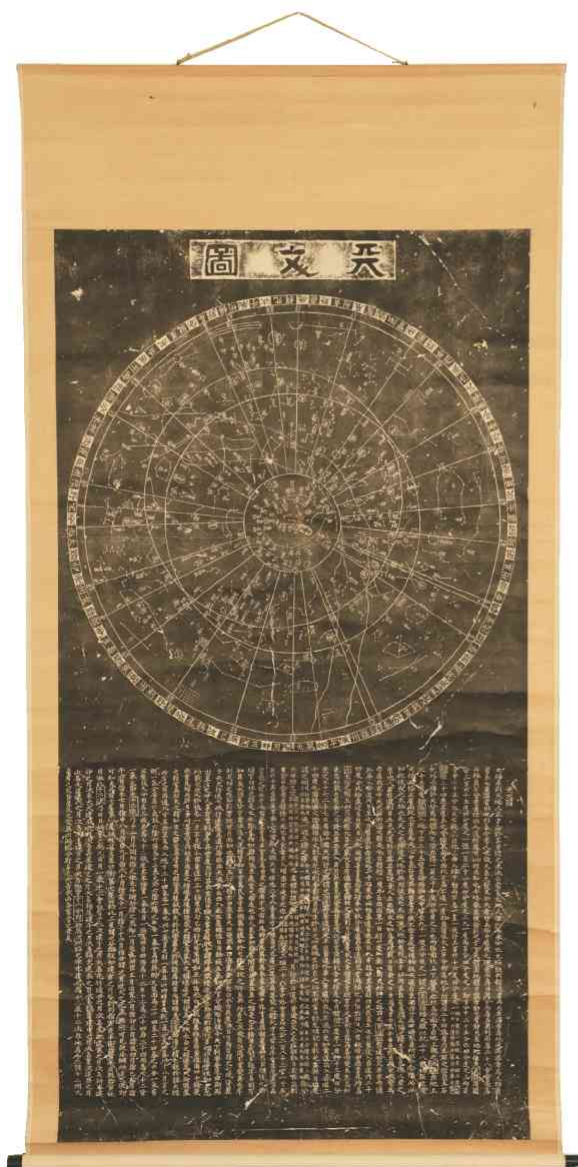


图 1.「天文圖」拓本



图 2.「天象列次分野之圖」拓本

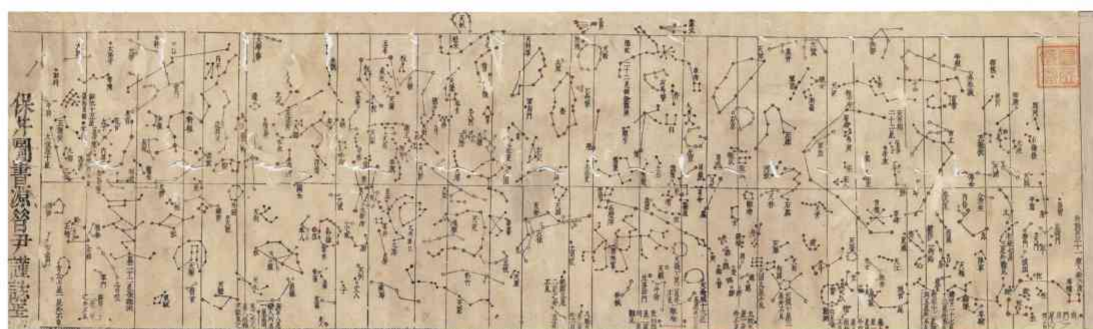


图 3.「天文成象」(前半部分)



图 4.「天文成象」(後半部分)

源氏物語（文学研究科図書館所蔵）

木田 章義（文学研究科教授）

近衛植家が誂えたと伝えられる源氏物語の写本が、平成 21 年度の大規模コレクションの整備費用によって購入された。近衛家は公家の最高家格の摂家の家で、近衛植家（1502-1566）は第 15 代当主である。室町後期の政治・文化の中で大きな役割を果たした公家である。本書は、その植家が当時の高名な書家を動員して書写させたものと思われる。おそらく嫁入り本であろう。植家には足利義輝や朝倉義景などに嫁いだ娘などが居る。

美しい黒漆の箱に収められ、箱には金銀で桐の蒔絵が描かれている。洗練された意匠でさすがに近衛家と感ずるさせる（写真参照）。俵匱（ケンドン）式の蓋を開けると、三段の引き出しがあり、それぞれに収めてある巻名が金泥で書かれている。本紙は良質の斐紙で、書家達も巻末に至るまで力を抜かず、丁寧に写している。

国文では研究に役立つものを書籍蒐集の基準としているので、本書のような美術品の購入は不思議なことに見えるだろう。

この近衛家のはじめの源氏物語書写には、連歌師の里村紹巴（1525-1602）が加わっており、「須磨」の巻を写している。その後、本書は巷間に流れ、戦国大名の毛利元康（1560-1601）の手に入ったらしい。そのとき紹巴が元康の身近に居たらしく、元康のために書いた日録が付されている。筆跡からみて、紹巴がかなり年老いてからのことらしい。実は、紹巴は元康の学問の師となっていた時期があるようで、国文研究室に所蔵する毛利元康書写の「紫塵愚抄」（国文学 Mm3）の校正をしている。元康が紹巴の指導のもとで源氏物

語の勉強をしている時に本書を入手したのなら、本書は「紫塵愚抄」などと一緒に元康の手元にあったことになる。

しかし元康の手に入った時には欠巻があり、欠巻分は当時の書家に補写させたい。日録には、はじめの書家（聖護院、青蓮院、妙法院など）と補写の書家（細川幽斎、飛鳥井雅章などの公家と昌叱、玄仍などの紹巴関係者）の名前が並んでいる。紹巴ははじめの書写に参加し、補写では日録を書き、入選をしたらしいので、両度の書写に参加していたことになる。従って、紹巴の記録する書写者は信頼できる。

この源氏物語の価値は、この書写者がほぼ確実であるというところにある。世の中には伝青蓮院筆、伝妙法院筆などと称されるさまざまな写本があるが、室町末期の書家の筆跡はほとんど知られていない。信頼できる手鑑は多くはないし、あっても 1、2 行の断片なので、筆跡の鑑定には役立たないことも多い。その点、この源氏物語は一巻を写しているの、ほぼ全ての字体を検討することができる。

室町末の書家の筆跡の基準として、また慶長頃の書家、連歌師の筆跡の基準として利用できるという点が、本書の研究上の価値なのである。しかも美術品としての価値も高い。

さらに国文研究室蔵「紫塵愚抄」と共に毛利元康の手元にあったものであるから、国文が購入するのも義務のようなものである。本書を購入したいと思ったのも一つの動機である。両書は 400 年振りに文学部図書館で再会したことになる。

資料の利用方法

- ・所蔵館： 文学研究科図書館
- ・配置場所： 国文学
- ・請求記号： 貴重書
- ・閲覧： （整理完了次第）可
- ・複写： （整理完了次第）可
（「図書・史料（全巻・部分）撮影許可願」に記入・押印して郵送）
- ・貸出： 不可

- ・事前連絡： 必要（閲覧を希望する日の一週間前までに「文学研究科貴重図書閲覧願」に記入・押印して郵送）
- ・特記事項： 貴重書
- ・備考： 利用は研究目的に限る



図 1. 箱の外観

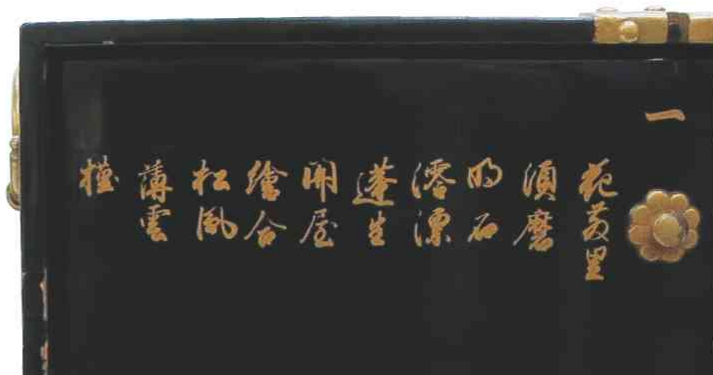


図 2. 引き出し



図 3. (左から順に)「帯木」「桐壺」「目録」

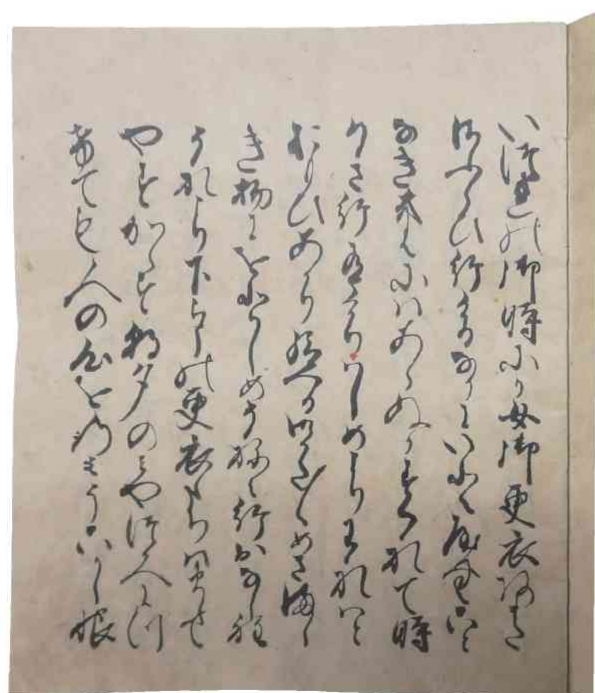


図 4. 「桐壺」冒頭

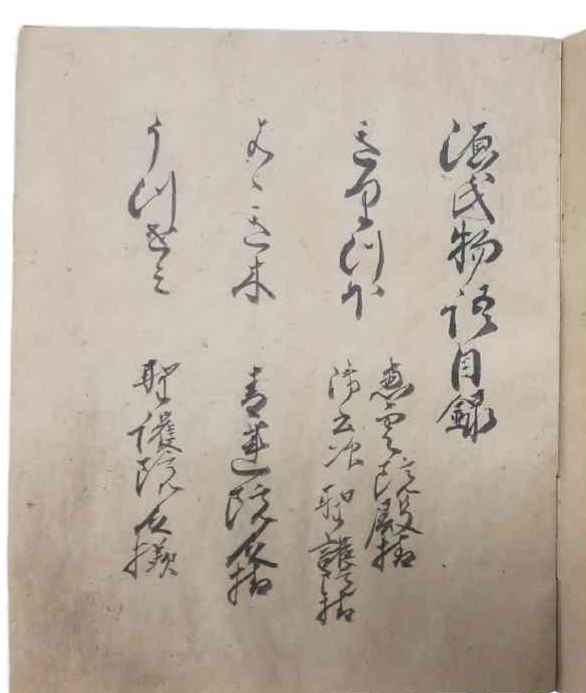


図 5. 「目録」冒頭

西川「パリ 5 月革命」文庫（人文科学研究所図書室所蔵）

箱田 徹（人文科学研究所研究員）

人文科学研究所の西川文庫は、フランスで 1960 年代末に起きた「68 年 5 月」（5 月革命）が、社会のあり方だけでなく、個人の生き方を不可逆的に変えてしまう「出来事」だったことを伝えるアーカイブです。当文庫には、半世紀近く前のフランスで、連日印刷・配布され、糊貼りされ、熱い議論の対象となったビラやパンフレットのほか、関連出版物・雑誌、一般の新聞・雑誌など数百点が収められています。

収集者は、1967-9 年に留学先のパリでこの出来事と「出会った」本学文学部出身の故・西川長夫氏（立命館大学名誉教授）と西川祐子氏（元京都文教大学教授）です。夫妻は長年人文研の共同研究班に積極的に参加され、近代フランスの文学と歴史にかんする研究成果を発表されています。

このような縁もあるなかで、人文研では長夫氏の著書『パリ五月革命私論』（平凡社新書）の刊行を記念し、人文研アカデミーシンポジウム「日本から見た 68 年 5 月」（2012 年 2 月）を開催。長夫氏をメインスピーカーにお招きするとともに、資料と写真の一部を展示しました。そしてこれを機会に夫妻から寄贈いただいた資料を、共同研究班「ヨーロッパ現代思想と政治」と科研費基盤 B『『現代思想』と政治』（2013-5 年度）の活動の一環でアーカイブ化し、長夫氏撮影の写真と共に主要部分をウェブで公開しました。

資料の大半は、運動の絶頂期である 1968 年 5 月のものです。このときフランスでは工場、大学、街頭が占拠され、ゼネラル・ストライキが起きました。数百

万人が参加した「総反乱」状況にあったのです。当時のビラは、情勢の速度に追いつくためか、見出しは手書き、本文はタイプで打っただけの簡素なものがほとんど（図 1）。他方、印刷物はときにポスターに早変わりもしました。このとき多数出現した「行動委員会」発行の日刊紙『アクション』が第一面に風刺画を大きく載せたのはこのためと言われます（図 2）。

他方、これだけの資料を収集した 2 人の若手研究者のその後も、この出来事がぶつかった問題と決定的なかたちで交錯します。祐子氏はフェミニズムと近代女性史、長夫氏は国民国家論とポストコロニアリズムという「ポスト 68 年」を象徴する研究分野の開拓者となるのです。祐子氏は『フェミニズムの時代を生きて』（岩波現代文庫、上野千鶴子・荻野美穂との鼎談）、長夫氏は先に挙げた著書で、それぞれ当時を振り返っておられます。

当時の資料を扱うアーカイブはフランス国内に複数存在します。しかし日本でこれだけの資料に直接アクセスできるのは、ここ西川文庫だけでしょう。大きさや色づかい、質感は実物でなければわかりません。フランスや社会運動、近現代史はもちろん、デザインや言語表現に関心のある人など、いろいろな方に見ていただきたいコレクションです。

* 関連書籍

クリスティン・ロス著、箱田徹訳『68 年 5 月とその後』（航思社、2014 年）

資料の利用方法

- ・所蔵館： 人文科学研究所図書室
- ・配置場所： 貴重書室
- ・請求記号： 未定
- ・閲覧： （整理完了次第）可
- ・複写： （整理完了次第）可
- ・貸出： 不可
- ・事前連絡： 必要
- ・特記事項： 未整理資料

・備考： 現物は整理中ですが、「Archives. Mai 68」にて画像を閲覧できます。なお、書庫 3F 西川「パリ 5 月革命」文庫に配架している一般書・雑誌・新聞等は、事前連絡なしで閲覧できます。

【Archives. Mai 68】（人文科学研究所内のページ）

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~archives-mai68/>



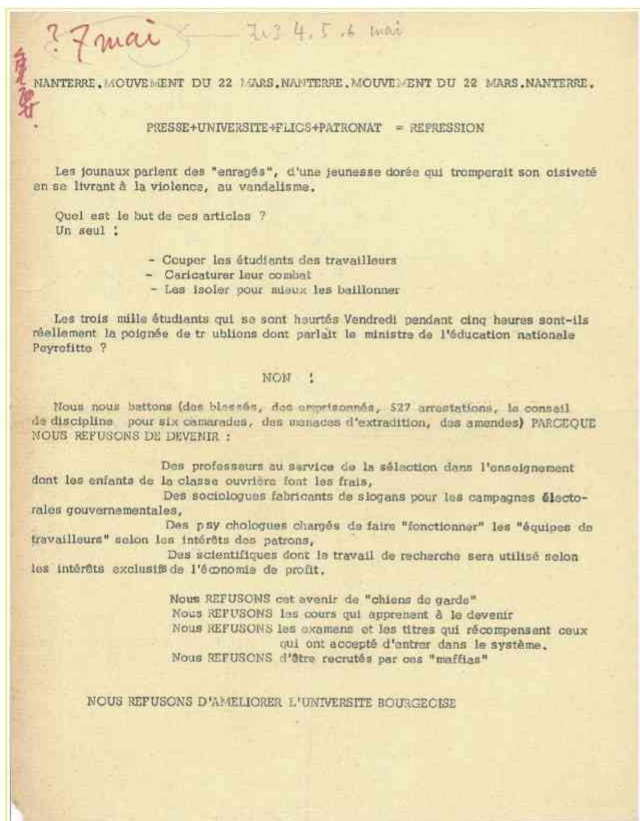


図1. 中心的な学生運動団体「3月22日運動」のビラ
(1968年5月4日頃)
「マスコミ+大学+警察+経営者=抑圧」



図2. 日刊紙『アクション』第9号1面
「混乱しているのは私(=ドゴール大統領)だ」

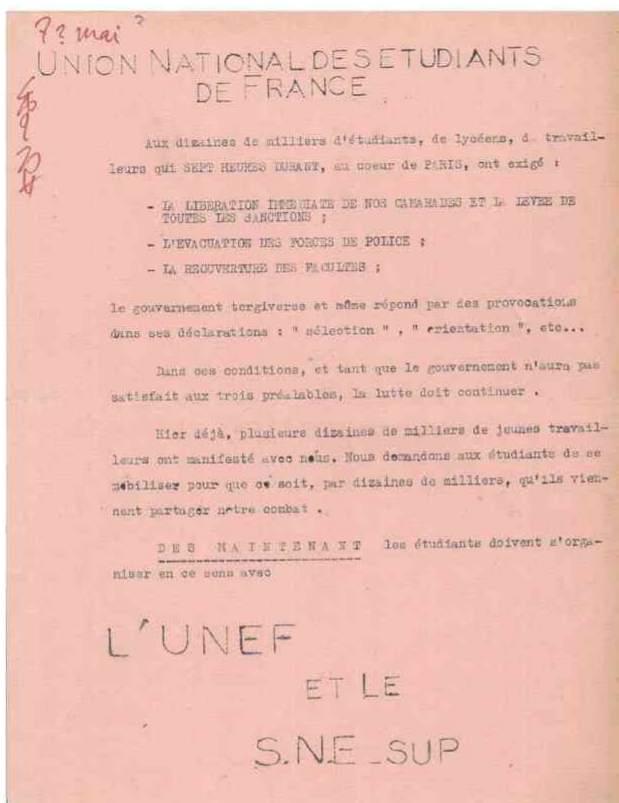


図3. フランス全学連 (UNEUF) によるデモの呼びかけ
(1968年5月7日)

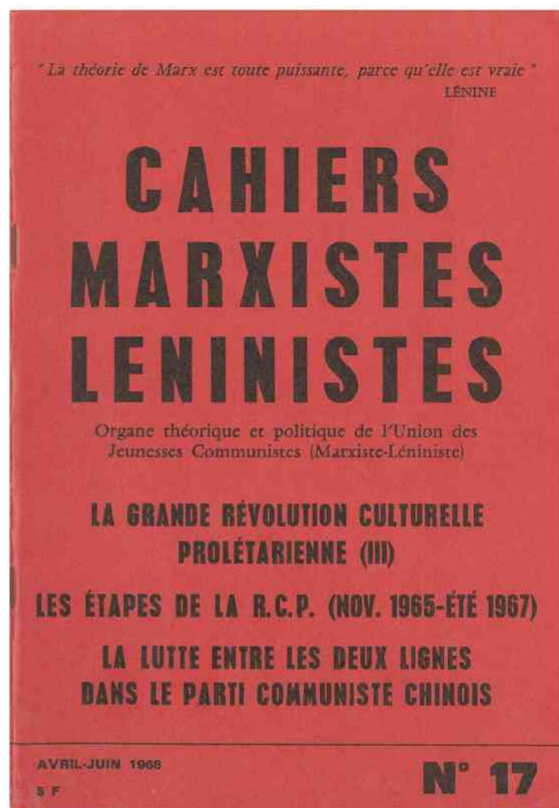


図4. 『マルクス・レーニン主義手帖』第17号
毛沢東派組織「青年共産主義者連合マルクス・レーニン主義派 (UJC-ML)」の理論誌。
J=L・ゴダールの映画『中国女』(1967年)にも登場することで有名

図書館機構スタンプラリー “Library Walk 2014” を開催しました

京都大学には図書館がいくつあるかご存知でしょうか？実は、附属図書館のほかにも研究科・学部、研究所等の図書館・室があり、その数なんと50以上！

図書館機構では、新入生のみなさんにこれらの多彩な図書館に慣れ親しんでいただきたいという思いから、好評だった昨年に引き続き吉田キャンパス内の学部図書館・室をめぐり歩く図書館機構スタンプラリー “Library Walk” を開催しました。さらに今年からは総合博物館も加わり、ますます充実した内容になりました。

平成26年4月2日から4月25日までの約1か月に、学部生、大学院生、教職員などあわせて160名の方にご参加いただきました。ゴールの条件は附属図書館、吉田南総合図書館をふくむ合計5個以上のスタンプを集めること。



ゴール地点の風景

アンケートでは多くの方からスタンプラリーでおとずれた図書館を今後も利用したいという声がよせられ、今後の図書館利用のひとつのきっかけづくりになったのではないかと思います。

各図書館では、みなさんの学習・研究活動をサポートするために、それぞれの対象者

や学問分野に応じたさまざまな資料を収集し、多様なサービスやスペースを提供しています。ご所属の図書館はもちろん、自分にはあまり関係がないと思っていた図書館でも、行ってみると思わぬ出会いや発見があるかもしれません。

ふだんはすこし敷居が高そうなイメージの図書館に気軽に足をはこんでいただいて、それぞれの図書館のもつ雰囲気を感じてもらえる、Library Walk がそのような機会になればうれしく思います。

Library Walk は来年4月も開催予定です。ゴールの附属図書館では景品をプレゼント！そのほかオリジナルで景品をご用意している図書館・室もあります♪何がもらえるかは行ってお楽しみ！今年参加できなかったみなさんもぜひ参加して、あなたのお気に入りの図書館を見つけてください。



Library Walk の台紙

図書館・室の印象
(アンケートより抜粋)

虫の標本が衝撃的
でした(総博)

いろいろな設備が
整っていた(附図)

キレイだった
(工化学)

広々としている
(農)

雑誌等多くのジャンルの
本があった(吉田南)

専門性が高い
(医)

おもしろそうな資料が
そろっていた(文)

こぢんまりとしてて
落ち着いた(理中央)

入口が広くてきれい
だった(経済)

すごそうな本が
多かった(法)

マンガが置いてあるの
にびっくりした(教育)

村上 章（農学研究科教授）

高校時代は理系科目の勉強を優先し、文系科目ことに古文・漢文にはあまり関心が湧かなかった。大学に入学して、偏った勉強は感性を磨く妨げになると思われたので、人文・社会科学にも関心を向けるようになった。そのせいか教養部の講義で印象に残るのは、小島衛先生のドイツ語、堀川哲男先生の東洋史学、野田宣雄先生の西洋史学などであり、高橋和巳氏の著作も好んで読んだ。助手になってから研究に専念し遠ざかったが、助教授になって思い立ち土曜や平日の夜間に、東一条の日本イタリア京都館でイタリア語を習い始めた。連携研究者のいたミラノ工科大学に滞在するのに、片言でもイタリア語の必要に迫られたこともその契機だった。5年ほどの勉強で文法を一通り修め、購読のクラスで17世紀の戯曲やダンテの神曲注釈などを精読した。岡山大学へ異動したためこの勉強は中断するところとなったが、これらは自分にとって非常に難解であった。叙事的なもの以外を読み解くには情感が不足しているため、叡智を感受するに至らないのだと感じた。

本学に戻って程なく、京大広報の「寸言」に中国文学者の井波律子氏が書かれた記事を目にした。そこには、文学部中国文学科において精緻な本の読み方を学ばれ、粘り強く徹底的に文章を読みとろうとする姿勢が身にしみて理解できた、とあった。上記の個人的背景もあり、井波氏の著作に関心を持つようになった。

井波氏は三国志研究や三国志演義の翻訳などで知られ多くの著作があるが、その中で「一陽来復 中国古典に四季を味わう」を挙げたい。本書のタイトル「一陽来復（いちようらいふく）」とは、「陰陽十一月、ことに、一年中で夜がいちばん長い冬至の日を指し、陰がきわまって陽がもどってくることをいう。これから広く、冬が去って春がくること、さらには暗い時期が過ぎ、明るい時期がやってくることを指すようになった」（本書まえがきより）。井波氏の著作は季節感や当時の世情を織り交ぜた分かりやすい記述が多く、時代を超えて自然を感じ、世間と交わる人々の生き生きとした情景が伝わってくる。本書は、第一部「四季おりおり一詩のある日々」で古典詩を読み解く情感が補われ、表現を紡いで読む助けとなる。第二部「今のこと、昔のことー身の記」は日常性の中で中国古典と関連づけながら綴られたエッセイであり、共感を覚えることの多いゆるやかな内容が収められている。読者を味読に誘い、人情の機微に触れる思いのする一冊である。

第一部において、陶淵明の自らの読書に関する自伝の記述がある。すなわち、「読書は好きだが、徹底的に理解しようとは思わない。自分の気持ちにぴったり合うところがあるたびに、うれしくなって食べる事さえ忘れてしまう」という自在な読書の極意である。俗人たる私は食べる事を決して忘れないが、思わず膝をうちさらに読書が楽しくなるものである。

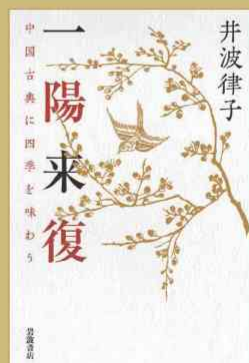
— 図書の情報 —

「一陽来復：中国古典に
四季を味わう」
井波律子著
岩波書店刊
2013年3月

— 所蔵図書館・室 —

教育学研究科・
教育学部図書室
地下開架
920.4||In 1

附属図書館
2階 開架
KK||63||イ 1





図書館・室からのお知らせ

■ 検索ツール "KU ArticleSearch" がバージョンアップ

"KU ArticleSearch" は、京都大学が提供している膨大な電子ジャーナル・データベース等の中から、必要な文献をまとめて探せる検索ツールです。このたび、インターフェースの改善や検索機能の強化が行われ、いっそう使いやすくなりました。詳しくは図書館機構の案内をご覧ください。

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/bulletin/index.php?page=article&storyid=1508>

図書館機構



■ 貸出履歴参照サービスを開始しました！

図書館で借りた資料の履歴を MyKULINE にログインして参照できるサービスです。

- ・この機能は、初期設定では無効になっています。有効にする場合は、MyKULINE にログインして利用者情報画面から登録をしてください。
- ・同じ画面から、無効に変更することもできます。無効になっている間に借りた資料の履歴を参照することはできません。
- ・貸出用紙等に記入して借りた資料は対象外です。また、図書館利用証（学生証・職員証）が変更になった場合の履歴は引き継がれません。

詳しくは図書館機構の案内をご覧ください。

利用状況一覧				マイフォルダ	新着アラート
貸出履歴一覧 1件~10件 (全10件)					
利用状況一覧					
貸出履歴も確認できます。また、履歴の削除を行うこともできます。					
[貸出履歴] 10件					
No.	所蔵種	貸出日	名称	貸出事項	
1	文	2014/10/02	巻1	第1回人生：新書選集 / 吉川弘文館編。-- 巻1。-- 吉川弘文館。1997.4-1998.9。	
2	文	2014/10/01		ファンタジー / アフリカン・ポップ・アート / 森田二。-- 森田二。-- 森田二。1990.3。	
3	文	2014/10/01		大衆の文化の発展 / 森田二。-- 森田二。-- 森田二。1990.3。	
4	文	2014/09/30		光澤の文化 / 森田二。-- 森田二。-- 森田二。1991.3。	
5	文	2014/09/30		光澤の文化 / 森田二。-- 森田二。-- 森田二。1991.3。	
6	文	2014/09/30		光澤の文化 / 森田二。-- 森田二。-- 森田二。1991.3。	
7	文	2014/09/30		光澤の文化 / 森田二。-- 森田二。-- 森田二。1991.3。	
8	文	2014/09/26		光澤の文化 / 森田二。-- 森田二。-- 森田二。1991.3。	
9	文	2014/09/12	6	光澤の文化 / 森田二。-- 森田二。-- 森田二。1991.3。	
10	文	2014/09/11		光澤の文化 / 森田二。-- 森田二。-- 森田二。1991.3。	

図書館機構



<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/bulletin/index.php?page=article&storyid=1521>

■ 医学図書館で「図書館向けデジタル化資料送信サービス」が利用できます

附属図書館とともに、医学図書館でも利用できるようになりました。医学図書館での同サービスの利用方法については、医学図書館の案内をご覧ください。

医学図書館



<http://www.lib.med.kyoto-u.ac.jp/ndldigital.html>

京都大学図書館機構報「静脩」(ISSN 0582-4478)

Vol. 51 No. 3 (通巻 183 号) 2014 年 10 月 31 日発行

編集:「静脩」編集小委員会(責任者:附属図書館事務部長)

発行:京都大学図書館機構

京都府京都市左京区吉田本町 36-1

TEL 075-753-2613

URL <http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

表紙題字:附属図書館所蔵 西園寺公望公揮毫

今月の表紙

文学研究科図書館所蔵の貴重書『源氏物語』です。

精緻な意匠で惚れ惚れするような美しさですが、ただの美術品ではなく学術的価値も高いものです。特集記事にて、じっくりご紹介します。

